

1. 今年度事業の経緯

里山フィールドで 2006 年(平成 18 年)より続けている里山保全活動を継続して行い、その場でプレーパーク事業「里山ガーデン子どもの冒険ひろば」の開催や子ども対象の活動を継続して行った。また春のサクラまつりやオープンガーデン等の花と緑を通した地域交流事業により、地域の住民や子どもたちに里山や身近な環境や科学に対する意識の向上を図ることを目的として事業を行ってきた。Hs0（ひょうご持続可能地域づくり機構）の事業にも関わり、サポートを行った。また林田川から範囲を拡大して揖保川プロジェクトを実施した。こどもから大学生・大人・リーダーに至る幅広い層に対して講座を開催し、活動の幅を広げている。サイエンスカフェや子ども食堂の事業をたつの市で展開した。また、花緑関係の中間支援活動を行った。姫が丘緑の会設立と兵庫県助成金を得た里山の駐車場等の芝生化により姫が丘里山パークの公園としての整備を進めることができた。

2. 事業内容

定款に掲げる特定非営利活動事業を中心とし、2019 年 4 月～2020 年 3 月の間に活動を行った。

事業は、①里山から里海までの保全活動 ②里山ガーデン冒険ひろば ③キッズ・エコ・クラブ、キッズ・ブック・クラブ④子ども食堂 ⑤サイエンス・カフェ ⑥地域交流事業（桜プロジェクト・花緑中間支援活動を含む） ⑦連携教育活動支援 ⑧揖保川プロジェクトの実施 ⑨その他。

1 里山から里海までの環境保全活動（2006 年開始）

毎月 1 回の定例のプレーパークに連携した里山整備を行った。里山整備の参加人数は 1 回あたり 2-3 名。

川の活動として 2014 年から協力を行っている身近な水環境の全国一斉調査を 6 月に須加院川及び林田川・揖保川にて実施した。里山に加えて里川をフィールドとして保全活動を実施し、里海への拡大を進めた。

里山整備の様子



2 里山ガーデン冒険ひろば

兵庫県青少年本部の補助金により実施（1 件の補助 2014 年度より継続）

プレーリーダー配置のイベント型プレーパークは原則毎月第 3 日曜日 13 時～16 時開催。プレーリーダー配置なしで常時開催となっている。

「自分の責任で自由に遊ぶ」をコンセプトに、プレーリーダーのサポートのもと、子どもたちは里山を思い切り満喫。兵庫県青少年本部の補助金を活用したプログラムでは原則月 1 回プレーリーダーを配置してプログラムや冒険広場のエリア整備と自由プレーパークを実施。今年度はメインのプレーリーダーを中心にして、学生団体とともに企画運営を行いました。

学生プレーリーダーのアイデアを積極的に取り入れながら、子どもたちが自由な発想で思いきり遊べるよう、里山の自然を活かすさまざまなプログラムを企画し、広報しました。

参加者の子どもたちや保護者との交流により、学生にとっても参加者にとっても、大変学びの深い機会を提供できたと思います。子どもたちと学生が回を重ねるうちに親しくなり、信頼関係も深まって、大人も子ども共に成長する姿が見られました。

小学校等へのチラシ配布はもちろん、継続と口コミ効果、SNS 拡散効果を合わせ、近所の子ども以外の参加者も増えてきました。

里山の豊富な資材と十分な広さにより、心身ともに解放される子どもが多くみられ、またプレーリーダーが見守る安心感のなかで、初めて出会う子どもや学生同士ですぐに仲良くなり、参加者みんなが協力して1つのものを作り上げたり、チームでゲームを繰り広げたりという姿も見られ、本来の人間関係とコミュニケーションを学ぶ貴重な時間となったと思います。

今後も引き続き、プレーパークを通して多くの子どもたちが学びを得る機会を得られるよう、定期的に開催していきたいと思います。年度末の新型コロナウイルス感染拡大により、子どもの休校措置がとられたため、緊急支援活動にも関わりました。

プレーリーダー配置のプログラムは31回、参加人数のべ579名と例年の参加者数を維持している（学生主催の未報告分は除く）。常時開催の参加人数は未集計であるが総計1000名程度あると思われる。とくに年度末から子どもだけでなく中学生・高校生の訪問も見られる様になった。

体制としてメインプレーリーダー1名、プレーリーダー2名程度、随時協力するプレーリーダーと学生プレーリーダーの体制で実施。また城見が丘保育園園児の訪問や近隣の児童の訪問があった。



プレーパークの様子



③ キッズ・エコ・クラブ、キッズ・ブック・クラブ

国立青少年教育振興機構の助成金である子ども夢基金による事業を行った。この事業は里山サバイバルクラブの協力を得て実施した。（2件の助成）（子ども人数 大人人数）

キッズエコクラブ

05 / 19日 10:00-12:00 はりまキッズ・エコ・クラブ 13 12

～里山の植物をプランタで育てよう～

里山での自然体験を通じて、子供の感性を養い、子供の自然体験学習を行うことを目的としている。

里山の表土や礫石を用いてプランタを準備し、きゅうりや枝豆等の植物を苗植えた。

環境についての認識や学び、気づきが子供たちにあった。はじめて、きゅうりや枝豆の苗を見た子どもが多く、体験後、きゅうりができて、収穫できた子どもから後日、喜びの声が届いた。

06 / 16日 13:00-15:00 はりまキッズ・エコ・クラブ 35 30

～里山の田植えてまなぼう～

里山での自然体験を通じて、子供の感性を養い、子供の自然体験学習を行うことを目的としている。

里山での田植えてを体験し、苗植えておよび田植えて機体験を行った。

環境についての認識や学び、気づきが子供たちにあった。お米がイネからできていること自体知らない子供が多く、体験後、食べる事の有難さを実感できたとの感想が多く寄せられた。

06 / 29土 10:00-12:00 はりまキッズ・エコ・クラブ 12 12

～里山のカエルをまなぼう～

里山での自然体験を通じて、子供の感性を養い、子供の自然体験学習を行うことを目的としている。

里山のカエルを捕まえることが好きな子供に対して、かえるの生態を理解できる機会を設けた。

環境についての認識や学び、気づきが子供たちにあった。カエルの足の指の数、泳ぎ型による頭の形の違い、オタマジャクシからカエルへの成長など、子どもたちがカエルについて深い知識を身につけて、それを言葉で最後に用紙に整理できた。

「はりまビブリ
オバトル」より
絵本のビブリオ
カフェとサイエ
ンスカフェ&ビ
ブリオカフェ

委託事業による里山体験学習活動

環境に対する関心を高め、環境を大切にする心を育むため、青少年向けの体験型環境学習事業を開催する。

■内容

(1) 里山基地づくり

里山資源を材料として使用し、里山基地のプランを考え、設置作業を行う。

(2) 里山体験（自然体験）

里山資源を体験道具として使用し、自然体験を通じて、学びを実感する。

■参加者

小学生・保護者 11月2日(子ども18名、大人12名)、11月3日(子ども20名、大人13名)

■実施場所

「はりま里山研究所」および「はりま里山ガーデン」

森の秘密基地づくり

■委託事業 兵庫県中播磨県民センターよりの委託事業



④ 子ども食堂の開催

たつの市神岡町東鶯崎の里山カフェで月1回の定例で開いている。親子のコミュニケーションの深まりや地域の交流を目指した活動である。12回開催

⑤ サイエンス・カフェ

今年度は月1回のペースでたつの市神岡町東鶯崎の里山カフェで開催した。

主として大人対象の取り組みで本当のカフェの場で行う正統派のサイエンスカフェを目指している。12回開催

⑥ 地域交流活動

花や緑を通じた地域交流活動

2019年4月6日「さくら・つつじ祭り」100名、2019年5月17-19日「オープン・ガーデン」300名、を実施した。中播磨桜の名所づくり連絡協議会の活動を継続し、桜をキーワードにした地域の名所づくりの活動を行った。2019年8月1日には緑の講習会の実施、兵庫県の花緑中間支援助成を得て2020年2月23日に姫が丘里山パークの開園企画として学生イベントを行った。2020年3月21日に姫路教育会館で第2回はりま桜シンポジウムを開催する予定であったが新型コロナ感染拡大により中止とした。



姫が丘里山パークの芝生と15種の桜の植栽。花壇づくり



⑦ 大学等との連携活動

兵庫県立大学環境人間学部のフィールドワーク(6/1尾崎教授)や環境生物学実験(6/3大橋教授)、里山フィールドや研究所施設の活用を行った。またエコ・ヒューマン地域連携センターの学生活動との連携活動支援(木の子)、香呂南小学校、城見ヶ丘保育園のフィールド活動支援等を行った。

⑧ 揖保川プロジェクト 近畿建設協会助成事業

春から夏にかけての河川敷整備を行いと8月3日には林田川の生物調査とクリーン作戦・揖保川漁協の協力による鮎のつかみ取りのイベントを実施。里川の再生に向け、姫路市安富町塩野での林田川プロジェクトを継続し、里海につなげる活動とした。姫路グリーンバードとの連携による新舞子海岸の清掃活動を行った。このプロジェクトのまとめとして姫路市立図書館網干分館で2020年2月9日、森川海のつながりを目指す交流会を開催した。講師の原賀いずみ氏には講演と布絵シアターの行って頂き、森と海のつながりの3者トークでも参加を頂いた（コーディネーターは本多孝氏）

写真は林田川の生物調査活動と交流会の様子



⑨ その他

委託事業：環境学習に関わる他団体の講師派遣事業を兵庫県中播磨県民センターより受託し、事業を行い、4名の講師の方への講師謝金助成を実施した。里山観察会を行った。

3. 事業の成果

- 1 これまで同様、里山の保全活動を行うことにより、森林の環境が保たれ、遊具の修繕により子どもも安全に遊ぶことができた。また、保全活動を定期的に行うことによって、地域の方の参加を得ることに繋がった。
里山だけでなく里川の再生を目指す林田川プロジェクトを揖保川プロジェクトとして拡大することができた。
- 2 環境学習では中播磨県民センターからの事業委託（2件）、による環境学習の実施や他団体の支援の活動が行われた。また学生に学ぶ場を提供し、社会での活動や学習体験の一助となった。
- 3 花緑の活動では県の助成を得て中間支援事業を行うとともに、姫が丘里山パークの芝生化整備と一体となった里山誠意を行うことができた。
- 4 大学との連携では学生の社会貢献活動や教育に寄与することができた。
- 5 冒険広場では常設のメリットからか普段から子供たちが自然に訪れ、遊ぶ姿が見られるようになった。

4. 事業活動の問題点と解決策

専任の事務員がいないボランティア型 NPO の為、事務処理については理事長への負担が残っている。

サイエンスカフェや桜シンポジウムの開催は年度末の新型コロナウイルスの感染拡大防止を受けて中止となった。今後 Web 型の併用も検討する必要がある。参加費を頂く事業については今後は里山企画の事業として設定するなどして、NPO の直接事業から徐々に切り離していく必要がある。

子ども食堂についても NPO としては支援のスタンスで進めるが支援の主体は里山企画となる。

里山整備事業は参加者が少なく、広報の人的余裕もないため今後も対応を検討していく必要がある。

感染症の拡大により、今後の事業展開を縮小していくとともに Web を使った取り組みを初めて行く必要性も考えられる。